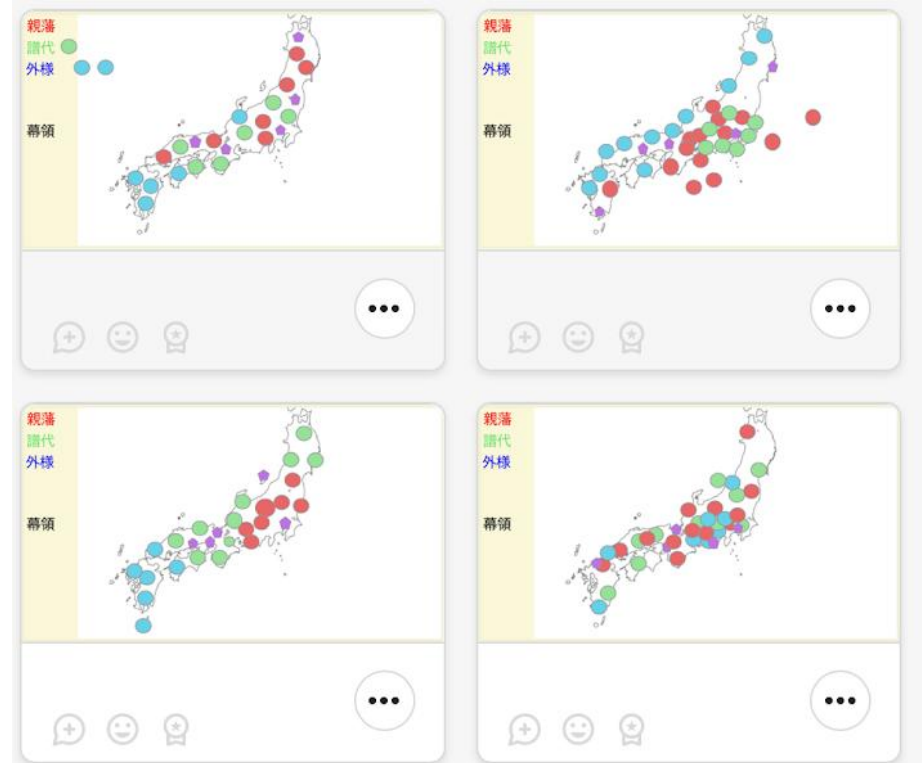
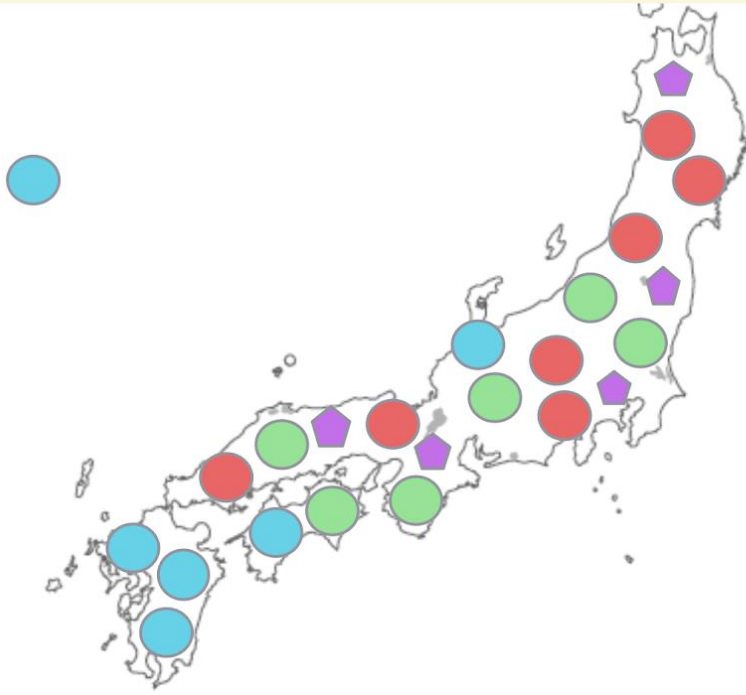


リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 社会科～協働的な学びを通した親藩・譜代・外様の配置の考察～



社会科の学習で、親藩・譜代・外様の配置を日本地図上で考える活動を行いました。スライド上で自由に配置できるようにしたことで、児童は自分の考えを柔軟に表現しながら取り組みました。それぞれが歴史的な背景や地理的な要素を根拠にしながら配置を考え、活発に意見を交わしながら作業を進めました。活動後は、全体で共有する時間を設け、各グループの考え方や工夫した点を発表する活動を組みました。これにより、異なる視点に気付くことができ、理解をより深めることができました。作業中もお互いの画面を共有できる状態にしておくことで、他者参照を促し、協働的な学びとなったように思います。また、進捗状況を教師が確認することで、個別に応じた声掛けを行い、児童のよさを伸ばせたように思います。社会科全体に応じて、ペーパー上では難しかった作業を、ICTを活用することで、効率的に学習を進めました。

【取組内容】 社会科～資料を活用した歴史の探究、情報活用能力の向上を目指して～



社会科の学習において、資料を活用した情報の取捨選択と発信の力を育成することを目的にした授業を実施しました。「縄文時代のくらし」では、発掘された遺物や遺跡を基に、当時の人々の生活の様子を探る学習を行いました。児童は提供された資料の中から必要な情報を選び取り、それをもとに協働的に考察を深めることができました。また、「天皇中心の国づくり」では、聖武天皇による大仏造立に着目し、なぜその事業が行われたのかを資料を基に探究しました。児童は資料を分析し、自分なりの考えを持った上で、協働的な学びを通じて友達に分かりやすく伝える活動を行いました。これらの学習を通じて、児童は資料をもとに歴史を考察する力を養うとともに、得た情報を整理し表現する力を高めました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 国語科～デジタルツールを活用した協働的な文章作成の実践～



この話は町外れの円形劇場あとに迷い込んだ不思議な少女のモモが親友や子供達と楽しく暮らしていた所へ時間泥棒という男たちがやってきて人々の時間を奪い、奪われた人は怒りっぽい落ち着きのない人になってしまいます。モモがそれを止めるためマイスター・ホラと協力して奪われた時間を取り戻すお話です。

モモは勇気のある少女だと思います。なぜならモモが時間の国から帰った時、もし私だったら親友も子供たちもいなくて自分一人になったら時間泥棒から奪われた時間を取り戻すことを一人で諦めていたと思うからです。自分のためではなく仲間のためにどんなに自分が苦しくてもあきらめないで立ち向かっていくモモは勇気のある友達思いの少女だとおもいます。私は一学期の時に学級代表になりたいと思っていたけど、なれなかったら恥ずかしいなとかもし誰も票を入れてくれなかったらどうしようかと思ってしまって結局勇気が出せずに見ているだけになってしまいました。でも後で勇気を出してチャレンジして見たらよかったなと後悔しました。モモは命懸けだから私よりももっと緊張したと思うので私もこれからはすぐに諦めずに勇気を出して何事にも立ち向かうと思いました。

国語科の「書くこと」の領域において、デジタルツールを活用して、児童が文章構成と推敲の過程を協働的に進める学習を行いました。児童は複数の文章のまとまりをカード形式で分け、それぞれのカードに適切な内容を配置しながら、文章の構成を考えました。この段階では、自分の考えを整理し、どの順番で情報を伝えるかを意識することができました。

その後、推敲では、児童同士が文章を送り合い、互いに添削を行いました。友達が文章の中で足りない部分や改善点を赤で添削し、フィードバックをもらうことで、より良い文章に向けた改善が行われました。この活動を通じて、児童は文章の構成力や推敲力を高めるとともに、他者との協働性を感じ取っていました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 実行委員を通しての協働的な活動と情報活用能力の向上

【第1回 運動会実行委員】

- 1.あいさつ
- 2.自己紹介と決意
- 3.今後の予定

★水曜日の昼休憩までに学活を1時間
クラスで話し合うこと

①今年の運動会の目標

→最終的に学年でまとめて1つの目標に...

②どんな運動会にしたいか？

→表現や団体競技を通して...

例:一人一人の個性が輝く、全力で頑張ること
ができる運動会にしたい
(ある程度、まとめるがいくつあっても良い)

2	一人一人の個性がアクセル全開！燃え盛る魂600
組	6年生、新しい自分よ！！
3	プルスウルトラ!!みんなで団結 悔いのない運動会
組	
4	最高で、やり切ったと思える運動会
組	



本校では、運動会や平和集会などの行事において、児童が実行委員を組織し、行事の目標や練習日程、内容などを考える活動を行っています。各クラスでの話し合いを基に、実行委員が集めた情報を整理し、計画に活用しています。この過程で、児童は情報を共有するために、オンラインで協力して資料を作成し、内容を明確にまとめる作業を行います。さらに、実行委員間での意見交換を通じて、行事を成功させるための役割分担や準備を検討します。集めた情報を整理し、それらを基にスライドを作成して発表を行いました。児童はICT機器を使いこなしながら、自分たちの手で学校行事を企画推進しました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 総合的な学習の時間～SDG s に関する調べ学習と発表活動～

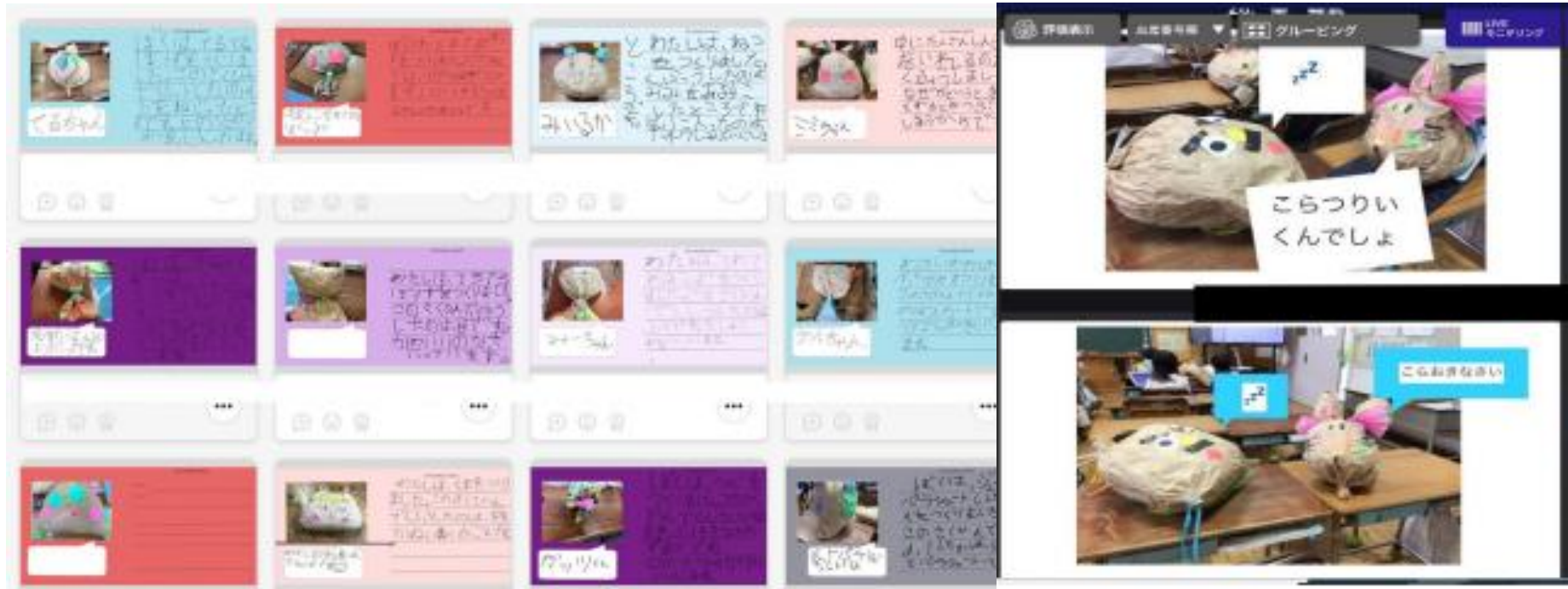
15 陸上の生態系や森林を保護しよう “陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで、多様な生物が生きられるように大切に使おう” 	ゴールの説明 1 自然の生態系を守り、生物の多様性が失われないようにし、絶滅が心配されている生物を保護して絶滅を防ぐため、緊急に対策をとる。 	ゴールの説明 2 2030年までに、砂漠化に対応し、砂漠化、干ばつ、洪水の影響を受けておとろえてしまった土地と土壌を回復させ、これ以上土地をおとろえさせない世界になるよう努力する。 	ゴールの説明 3 保護しなければならない動物の密猟や、法律に反した取引をなくすために、緊急の対策をとる。法律に反する製品が求められたり、売られたりすることがないようにする。 
今起きている問題 絶滅の危機にあるゾウのきば、トラの骨、サイのツノなどが法律で禁止されているのに関わらず、高い値段で取引されています。 3年でゾウのきばのためだけに10万頭のアフリカゾウが殺されました。 	日本での取り組み 地球上に生きている生物にとって森林は欠かせないものとなっています。しかし近年、人が森林を壊すことで、すでに絶滅をしてしまった生物や絶滅の危機に瀕している生物が多くいます。 そのために、木を植えるなどの活動があります。 	自分たちに来る事 ・外来種(もともとその土地に生息していない生物)に気をつける。 ・環境保護活動を行う団体などを応援する。 ・fsc認証マークのある製品を買う。 (fsc認証マークとは、sdgs15番のゴールを目指すための取り組みです。) 	

総合的な学習の時間において、児童は17のSDGsのゴールの中から最も興味のあるゴールを選び、それについて調べて発表する活動を行いました。調査した内容をまとめる際には、児童が使いたいツールを選び、オンラインの文章作成支援ツールやスライドなどを活用しました。調べたことから伝えたいテーマを1つに絞り、1枚のカードにまとめ、文字数を少なくするなど、分かりやすさを重視してまとめました。この過程で、資料作成において相手を意識して伝えることができました。発表会では、自分の調べた内容を資料を活用して分かりやすく伝え、意欲的に取り組んでいました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 図画工作科～ICTを活用した創造的な図工の学び：共有・発想・表現の深化～



図画工作科の時間には、ICTを積極的に取り入れて、創造性を引き出す活動を行っています。例えば、児童は自分の作品の工夫した部分をICTを使って他の児童と共有し、その特徴を伝え合います。また、ICTを活用したアイデアスケッチを行い、思いついたアイデアを迅速に形にするなどの方法を行っています。また、作品から「聞こえる声」を画像に書き込む活動では、児童は視覚と聴覚を融合させて、作品に新たな意味や感情を加え、作品を表現豊かに伝え合いました。これにより、図画工作科の時間で、より楽しく発想できるようになっています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 特別活動～個別最適な表現による係活動の充実～

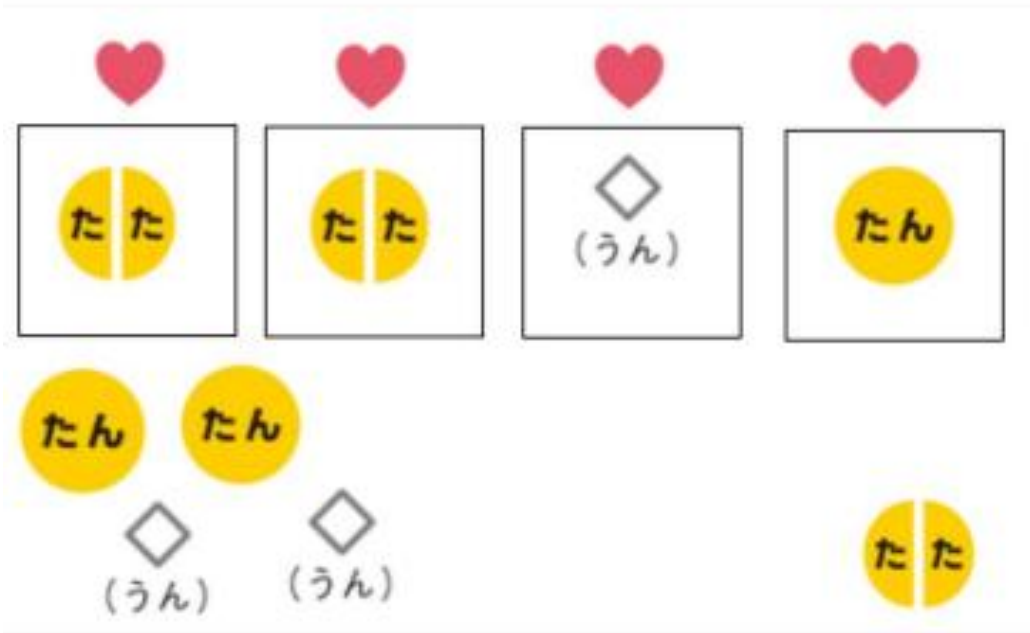


特別活動の時間にICTを活用し、児童の意欲を高める系のポスターや新聞を作成する取組を行っています。デジタルツールを活用することで、レイアウトの工夫や視覚的に分かりやすいデザインを取り入れながら、係活動の魅力を伝えることが可能となっています。また、文字を書くことが苦手な児童やイラストを描くのが不得意な児童も、デジタルツールを活用することで、自分に合った方法で表現できるようになっています。その結果、児童が自信をもって取り組める環境が整い、表現の幅が広がるだけでなく、係活動そのものへの関心や意欲の向上にもつながっています。ICTの活用により、個別最適な学びを実現しながら、児童の創造力や協働の力を高める特別活動を推進しています。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田小学校

【取組内容】 音楽科～ICTを駆使した創造的なリズム作りと共有～



音楽科の学習において、児童がリズムを体験し、楽しみながら音楽的な表現力を養う活動を行っています。初めに教師の打つリズムを真似する活動や、異なるリズムを試す活動を通じて、児童はリズム感を身に付け、音楽の楽しさを実感しました。その後、リズム作りのために、ICTを活用し、創造的なリズムを自分たちで作る活動に取り組みました。具体的には、「□」を固定し、「たん」「たた」「うん」のカードを動かせるようにし、児童はこれらのカードを組み合わせることで自分だけのリズムを作りました。作成したリズムは、グループで共有し、みんなのボードに移動させて視覚的にも確認できるようにしました。その後、共有したリズムカードを列車のように並べ、リズムリレーとしてみんなで楽しみながら行いました。このように、リズム作りを通じて、児童同士の協力や創造的な表現が促され、音楽の授業がより充実したものとなっています。